

コープで
広がる、
つながる

親子で歩く、宇都宮空襲戦跡めぐり

とちぎコープは、戦争の惨禍を学び、平和の大切さを次世代に繋ぎ・伝える活動に取り組んでいます。11月、うつのみやシティガイド協会の案内で、宇都宮市中心部に今も残る空襲の遺構を組合員の親子がめぐりました。



●焼け残った枝病院の門柱
「戦争の悲惨さを忘れまい」と
今も大切に残されている。



●カトリック松が峰教会
礼拝堂の屋根と2階の床を焼失した。
礼拝堂の壁に焼け跡が残る。



復興のシンボル 大いちょうの前で



●林松寺 (りんしょうじ)
1926年に造られた大谷石塀に
空襲の焼け跡が残る。



●清厳寺 (せいがんじ)
焼け出された多くの人が
本堂に収容された。



●二荒山神社の防空壕跡
神社東側の擁壁に。
現在は藁でおおわれている。

参加者アンケートより

私は生まれも育ちも宇都宮です。祖母から宇都宮空襲の話聞いたことがありました。遠い昔のどこかで起きたように捉えていた話が、今回の参加によって、現実と強く結びついたような気持ちになりました。自分がずっと過ごしてきた場所の歴史を歩いて辿ることができ、貴重な体験でした。

1945年7月12日午後11時10分。115機のB29爆撃機が宇都宮を襲い、9万4千個もの焼夷爆弾・焼夷弾を投下。現在のJR宇都宮駅から東武宇都宮駅の間、一般市民の住む市街地に集中的に爆弾が落とされ、620名以上の尊い命が奪われました。

「真夜中にゴオーっと音がして目がさめた。・・・何もかも焼けてしまった。大いちょうも黒焦げになった。でも一年後には芽を吹いて復活した。宇都宮のみんなが元気をもらったよ」宮のあたりの方が、とちぎ弁で「宇都宮空襲と大いちょう」のお話をしてくださいました。その後、ガイドさんの説明を聞きながら、4km程の道のりを約3時間かけてめぐりました。皆さん熱心に耳を傾けていました。